

Requested Patent JP62036304A
Title: COSMETIC;
Abstracted Patent: JP62036304;
Publication Date: 1987-02-17;
Inventor(s): MIZUMAKI KATSUMI ;
Applicant(s): KASHIWA KAGAKU KOGYO:KK ;
Application Number: JP19850122134 19850805 ;
Priority Number(s): ;
IPC Classification: A61K7/00 ;
Equivalents:

ABSTRACT:

PURPOSE:To obtain a cosmetic for cleaning and moisturizing the skin and hair and maintaining the skin in healthy state, by compounding a cosmetic with soya milk and more than a specific amount of a surfactant based on the solid component of the soya milk.

CONSTITUTION:The objective cosmetic can be produced by compounding a cosmetic base with soya milk and then adding /FONT

Best Available Copy

特開昭62-36304(2)

レシチンを含有する酸化粧品が知られている。

伝統的興味から牛乳風呂を仕立てたり、豆乳の強液（雪花藻）で洗顔すると白くなるといった民間での使用例は聞いたことがある。

(作用)

本発明者が豆乳を化粧料として使用してみたところ、予想し得ない数々の効果が認められた。

1) 水分を付加する効用

カサカサに乾いた皮膚は老廃を迅速するといわれるが、豆乳はその含有成分により、水分を與えかつ適度の水分を保持する作用を有する。皮膚の水分を固定するモイスチャーメーターにより、20名の使用者に適用したデーターを第1表に示す。

	ファンデーション	水にて拭く	豆乳にて拭く
頸部			
30分後	19~26	22~29	23~28
2時間後	18~24	19~22	20~25
上腕部			
30分後	23~32	25~30	26~32
2時間後	21~30	21~30	24~32
掌甲部			
30分後	16~24	18~28	20~30
2時間後	14~26	14~26	18~29

II) 光沢感を與える効果

皮膚また頭髪に豆乳を塗布し、しかも入浴するかシャワーにより除去了した後はしっとりとした光沢感を認めた。塗布処理を行わないものと同時に比較すると明らかに異なった感触であった。この感触は科学的データーにて表現出来ない面があるが、専門家のアンケートによると満足度は83%である。2表は家庭用 180ml浴槽で豆乳を 1.8ml 加え入浴させた際の結果である。

第2表

被験者の構成	6~12才	13~15才	16~25才	26~35才	36~55才	56才以上	計
男子 (人)	3	1	8	9	23	9	59
女子 (人)	5	6	12	14	18	6	61
計	8	13	20	23	41	15	120

アンケート結果

	良とする	中間である	不可とする	無回答
肌感について	肌のキメが細かい 77	普通で良い 10	かえって不可である 12	判らない 21
入浴時	泡あたりがよい 90	肌に馴染まない 3	さわやかで良い 9	不明 18
石鹸で洗う	泡立ちがよい 85	肌に馴染まない 14	汚れがとれない 4	不明 16
肌上りの気分	ほのかほかしている 94	肌に馴染まない 3	かえって気分が悪い 10	判らない 7
肌の感触	すべすべした感じ 39	肌にどうという ことはない 4	さっぱりとしない 2	不明 4
	しっとりした感じ 55		芳醇の感じ 3	
	むっちりとした感じ 25		ねっとりした感じ 9	

特開昭62-36304(3)

また、頭髪のシャンプー時に豆乳を配合して行うと、後に整髪料を附したときギラギラした変質な感じでなく、滑らかいためになる。

III) 汚れを離す作用

豆乳には油脂分、サボニン、レシチン等がミックスされ、之等が親水性ならびにリポイド性汚れを除去するに役立つ。本発明者が石鹼と併用配合して実使用したところ、泡立ち・汚れの整髪共によく、洗水を頭髪域下で観察すると豆乳の微粒子が汚れ粒子をとり囲んでいるのが見られる。この作用について考えてみると毛髪・皮膚共生体ではPH3.5～5.0と酸性側にあり、これに対してPH7.0～8.0で安定な豆乳のコロイドが酸性物質に相遇すると、豆乳コロイド粒子はこれを取込みつゝ粗大化する。酸性物質が多量でバランスが崩れたとき豆乳状スカムに凝縮するに至るが、活性剤で分散されるのでその周辺で汚れを除去と考えられる。

実験A：オシロイ（銀糸配合物80.0%，ソルビト

ール4.0%，ソルビタンセスキオレエート10.0%，ワセリン0.5%，液體バラフィン2.0%，プロピレングリコール2.5%，ヒマシ油1.0%）をシリガラスに一定に練り試験片とする。実施例1の組方品（甲）とそれから豆乳を除き残余100.0%とした組方品（乙）との10倍希釈液に試験を浸漬し、30分間振動し試験片を取出し5回水洗する。試験実施前のシリガラスを基準として光の透過度の比率を測定したところ次の通りであった。

A : 97.7 %

B : 82.1 %

IV) その他の効能

前述の通り豆乳には必須アミノ酸、脂肪酸、レシチン、ビタミン類を多く含有するから、之が生体に外部から與えられたとしても潤度、潤滑、皮膚をすこやかに保つ効能効果は充分推量出来ることである。

V) 雜 性

豆乳は飲食したとき毒性は全く認められない。8人の女性に毎朝10倍希釈の豆乳で洗顔させ、

92日間経過したが異常は全く認められていない。

以上説明により豆乳の効能効果は判ったが、これを含有する化粧品類の実際使用に当って第一の問題は腐敗変質に関するものであり、これは通常な化学保存剤の添加、殺菌処理の実施等の対応により解決出来る。

第二の問題は粒状（豆乳状に微かに固まつたもの……以下スカムと云う）の発生することである。即ち豆乳は電解質の存在で加熱時に凝固する性質のあることは周知のとおりである。これが凝固時に至らず單に粒子が粗大結合する程度において汚れ分をインクルーズして除去することが特徴であるが、この程度が著しく変化した状況下、例えば汗等の酸敗物質が多く殘存する場合、ノーキャップ頭が多く附着している場合、硬水・軟水を使用した場合、では凝固状態となりいわゆるスカムとなって皮膚また頭髪に残留する。スカム 자체は美容効果に対し生理上別に悪影響はないとして

も、スカムが洗去されないで附着した状態で人間に出来るわけにゆかない。従って化粧品においては、このスカムが凝固発生しないように工夫されねばならない。

本発明者はこの解決方法として具体的に界面活性剤の添加することを見出した。

実験B：市販豆乳（無添加：蛋白質分9.14% (105°, 2g, 3hr)) 10gをビーカーにとり、水20gと界面活性剤の各段階量を加え、次にCaCl₂・2H₂O 0.1/10液 10gを加え全体を 50g とし、錐形上で30分加熱する。錐形を以って離過し、5分間水切りの綿紙上に残ったスカム（含水のまゝ）を秤量する。結果は圖面に示す。

本圖において(A)は界面活性剤を加えない場合10g以上のスカムの発生がみられ(B)はCaCl₂を加えない場合である。界面活性剤(W, X, Y, Z)をえた場合底の量にてスカムの発生を抑えることが可能であることを示す。图においての記号について使用した原料は次の通りである。

W : ノニオン型 (4-トキシジチレンノニオブJ-52-98)

特開昭62-36304(4)

X : カテオニ型 (アラゲラセラミック・幹細胞)

Y : ピイオニ型 (アラゲラセラミック)

Z : アニオニ型 (アラゲラセラミック)

最も効果の認められるのはノニオニ型であり、豆乳に対し、0.2%以上で効果が認められ即ち豆乳の固形分当り2%に相当する。

しかし更に CaCO₃ が多くなるとスカムは生成するので、界面活性剤を増量する必要があり、またコンプレキシン剤の併用が有効である。

本発明になる界面活性剤と豆乳とを含む化粧品を分析するには、界面活性剤は通常法で行い、豆乳は BaCO₃ を含有していると思われる豆乳量と等量以上に加え煮沸し生成物の乾燥量とその灰化量の差を算り、同時に豆乳について同様操作を行ったものと比較することによって定量し得るし、更にN分を分析することによってもより適格となる。

実施例1

シャンプーの处方

a 豆乳 (固形分8.74% 含有)	10.0W%
--------------------	--------

b 842332376>99981-98 錠酸ナトリウム	30.0
c 8998032376>99981-98 ビレンツル	2.0
d 7337917酸エチレンタリウム	1.5
e 79891	4.0
f パラベン (アラゲラセラミック)	0.3
g 9998032376>99981-98	5.0
h 鹿茸エキス	0.1
i エチル 酸ナトリウム	0.1
j 888493839383838-2 Na	1.0
k 香料及び色素	2.3
l 精製水	45.9

予めlは20倍量の精製水に加え、加温しつつ攪拌し溶解させる。次いでa~eを加え、別にf~iと残余の精製水を混合した液を加え70℃附近に加熱し綿布を以て濾過し、j, h, k, lを混合して製品を得た。本品は淡黄色バール状微粒子光沢を有する頭髪用シャンプーである。堅質を残すことなく堅髪油脂は完全に洗去され、水洗後ドライブローしたときしっとりした感触であった。また固まったスカムは全く発生せずしたがって洗髪

後その様な汚片は附着することはない。

実施例2

コールドクリームの例

a 豆乳 (固形分9.07% 含有)	5.0W%
b 89741	5.0
c 79891	3.0
d 7770621939-1	6.0
e 89791	3.0
f 23962148	25.0
g ヒマツ油	5.0
h 842332376>98291-2976-1	2.0
i 78291-2976-1	5.0
j パラベン	0.2
k 9896032376>98291-2976-1	0.3
l 89891	0.3
m 香料	0.2
n 精製水	40.0

b~hを混合しAとし、a, i~l, mを混合しBとし、両者50℃に加温してBの中へAを投入する。次いでnを加えよく混練しクリームとする。本品は皮膚に塗布したとき滑潤感があり、クリー

ムのきめは細かく感触がよく、分離することはない。取扱下温度で各粒子は均一に整っており、保存中にスカムを生ずることはない。

実施例3

ローション (乾性皮膚用) の例

a 豆乳 (固形分9.07%)	3.5W%
b 89791 銀	2.0
c 滅菌エタノール	0.5
d 78291-2 (70%)	2.0
e 79891	2.0
f 842332376>98291-2976-1	1.5
g 78291-2976-1	0.2
h フェノ-8X376>酸アント	0.5
i 8998032376>98291-2976-1	0.2
j 78291-2976-1	0.5
k 香料	適量
l 精製水	加えて 100とする

a~lを混合し、瓶に充填密栓し製品とする。本品は豆乳を含むバニシング系ハンドローションである。主婦や職業上水を量う家庭婦は、皮膚の角

特開昭62-36304(5)

質感に含まれている水溶性水分が失われ皮膚が荒れ易い。本品は豆乳含有成分によってそれを補うを目的とするが、豆乳乳化粒子が粗大スカムとなってはその効果を失うので、その他の配合により微粒に分散を保つ工夫がされている。

実施例4

ヘアローション(リンス)の調製

組方

a 豆乳(固形分92%)	5.0W%
b エタノールメントラントン/ニオル/1~5	1.0
c レシチン	0.2
d ハーブ油	2.0
e フラーバ油	2.0
f チル酸Na	0.1
g チルコール(90%)	40.0
h リンゴ酸	1.0
i T字油	0.2
j パウダー	0.2
k 精製水	48.3

先づ「をe, kの順に50℃に加熱しよく溶解し、

a, b, c, f, h, i, d, eの順に調合して成る。一般にこの様なアルコール水をベースとした場合c, d, eの多量配合は分離を生ずるが、e, hの配合により見化粧になって安定である。本品は頭髪のバサツキを防ぎ柔軟性を與え、かつフケ、カニミの発生を抑える。

また、とくにバーマネントウェーブ、染毛処理を行った毛髪の保護に有効である。即ちこれらの処理薬剤は洗髪後とはいえ微量存在し毛質を傷めるが、本品でローションをすることにより処理薬剤は豆乳と作用するので髪は保全される。

実施例5

浴用液の例

a 豆乳(固形分14.7%)	60.0W%
b №9999997エート	5.0
c №9999997エントン/ニオル/1~5	5.0
d ハーブ油	0.5
e エチル酸4Na	0.5
f デンタルバイオレット(他の色素で代用可)	0.2
g 香料	0.5

h 精製水 28.83
a~hを混合し攪拌して製品とする。本品180gを家庭用浴槽180Lに1滴分として使用する。使用量を多くすれば著しく発泡し泡立ち特異潤滑剤となり、浴槽中に浮遊が生じない。

(結果)

本発明は化粧料として即ちシャンプー・リンス等の洗髪・頭髪化粧品、アフターシューピングローション、ハンドローション等の一般化粧水類、クレンジングクリーム・シェーピングクリーム・コールドクリーム等のクリーム乳液類、パック用化粧料、ファンデーション類、専用化粧品類、洗顔料類、石鹼類等広範囲に応用し得、使用後皮膚・頭髪清浄にしかつうるおい與えすこやかに保つ効果がある。

添加量をとり、頭髪にスカムの発生量をとって表した。

実験条件は詳細な説明中に記載の通りである。

- A: 界面活性剤を加えないでCaCl₂を加入了の場合
- B: 界面活性剤を加えないでCaCl₂も加入了の場合
- C: ノニオン型界面活性剤を加入了の場合
- X: カチオン型界面活性剤を加入了の場合
- Y: 両性型界面活性剤を加入了の場合
- Z: アニオン型界面活性剤を加入了の場合

図面の簡単な説明

図面は豆乳のスカムの形成を抑制するために、界面活性剤の添加が効果のあることを示す実験結果をグラフ化したものであり、横軸に界面活性剤の

出 品 人 株式会社 油化学工業

特許第62-36304(6)

手続補正書(自効)

昭和61年 7月 16日

特許庁長官

署

1. 事件の表示

特許登録 昭和60年122134号

2. 著者の名前

花菱 駿

3. 稽正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都中央区日本橋小網町8番4号

氏名 株式会社 カワラケフクヤウ

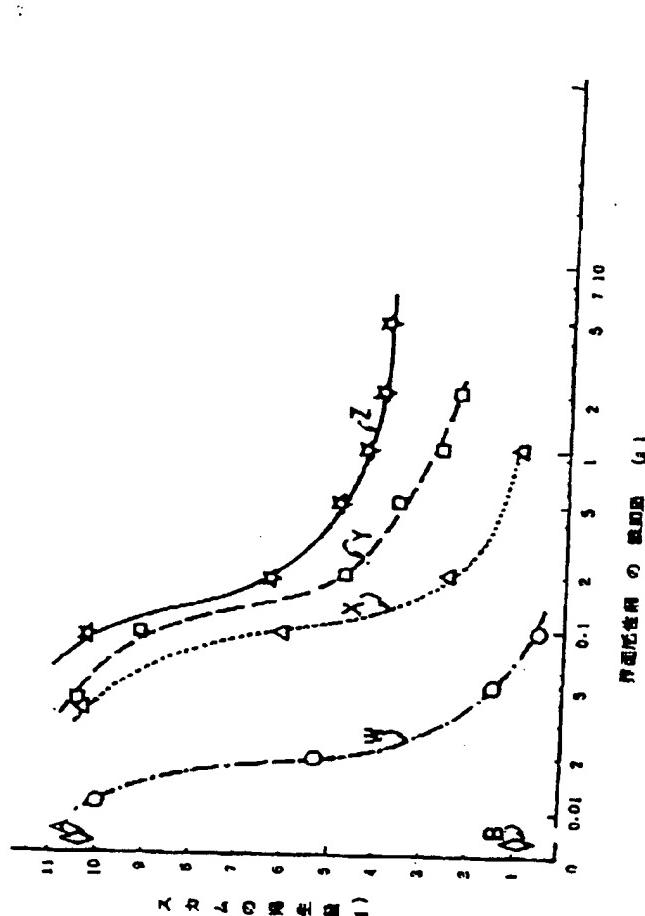
代表者 植田吉郎



4. 稽正の対象

明細書の一項

5. 稽正の内容



(1) 明細書第2頁第1行中「水分」を次記のとおり訂正する。

記

英文

(2) 明細書第7頁第1行、第3行の「A1, B1」を次記のとおり訂正する。

記

甲:

一:

乙:

(3) 明細書第9頁第6行と第7行との間に次記の文題を挿入する。

記

原産地は前記の他に水分が高いので、取扱上の便と販賣の点を考慮して、実験品を用いてよい。又実験品の分析例として、蛋白質4.0~4.5%、脂肪1.0~1.5%、炭水化物1.0~1.5%、灰分4~5%、水分2~1.0%が参考である。

(4) 明細書第14頁第1行中「水分」を次記のとおり訂正する。

記

成分

(5) 明細書第14頁第2行に次記のとく1中加入する。

記

a. 脂肪酸 (固形分 32.0%) b. 8.0%

以上

手続補正書

昭和61年 7月 5日

特許庁長官 中文道 勝

1. 事件の表示 昭和60年特許登録122134号

2. 著者の名前 化粧製

3. 稽正する者

事件との関係 特許出願人

花菱 駿 東京都中央区日本橋小網町8番4号

氏名 株式会社 カワラケフクヤウ

代表者 植田吉郎

4. 稽正命令の日付 昭和61年 6月16日

5. 稽正により増加する著者の数 なし

6. 稽正の対象 「昭和61年 7月16日付提出の手続補正書の稽正の対象の欄」

7. 稽正の内容 著者のとおり



特開昭62-36304 (フ)

手続補正書

昭和61年 7月16日

特許庁長官 宇賀道 部長

1. 事件の番号 昭和60年特許第122134号

2. 発明の名称 化粧鏡

3. 補正する者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都中央区日本橋小松町8番4号

氏名 ^{リチャード・アーヴィング}
株式会社 総合化学工業

代表者 佐野富吉郎

4. 補正の対象

明細書「発明の詳細な説明」の欄

5. 補正の内容

別紙の通り

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.